

# 第10回 鹿児島県児童クラブ連絡協議会 総会

## 総会記念 講演会



- 日時 **2016(平成28)年6月12日(日) 14:00受付 14:30~16:30**
- 会場 **鹿児島市「鹿児島県労働福祉会館 7Fホール」(〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5-7)**
- 主催 **鹿児島県児童クラブ連絡協議会**
- 共催 **おおすみ学童保育の会 霧島市児童クラブ連絡会  
薩摩川内市放課後児童クラブ連絡協議会**
- 日程

■開会あいさつ	14:30~14:40
■記念講演	14:40~16:00
講 師:河野 伸枝(こうの のぶえ)さん / (埼玉県原市場学童保育所 かたくりクラブ支援員)	
テーマ:学童保育の生活で大切にしたいこと	
【講師プロフィール】	
1959年、鹿児島県南さつま市坊津町に生まれる。幼稚園教諭を経て、1990年、埼玉県原市場学童保育指導員となる。全国学童保育連絡協議会副会長。全国学童保育指導員部会長。共著に教育シリーズ『貧困と学力』(明石書店)『はじめの一步』(草土文化)『日本の学童ほいく』(全国学童保育連絡協議会)他。	
現:全国学童保育連絡協議会副会長	
◆意見交換	16:00~16:20
■閉会あいさつ	16:20

## 学童保育の生活で大切にしたいこと

全国学童保育連絡協議会副会長

埼玉県飯能市原市場かたくりクラブ支援員 河野 伸枝

はじめに

### 今、子どもと家庭を取り巻く状況

#### ●今、学校で・・・

- ・小学校での暴力行為件数・・・10、896件（10年前の8倍）
- ・小学校でのいじめ件数・・・118、805件（前年比1421件増）
- ・小学校での不登校件数・・・24、175件（前年比2932人増）
- ・気になる（学習面と行動面で著しい困難を示す）子どもの増加

小中学校で、普通学級にいる特別な配慮を要する児童の割合（2012年調査）6、5%

→子どもの感情をセルフコントロールがきかない、自己評価が低い、愛着形成の困難さ

#### ●家庭では・・・

- ・虐待相談対応件数（全国7万3802件）内、年齢別では、小学生が最も多く1646件
  - ・孤立家庭の増大（地域ネット、親族ネットの崩壊）・・・無縁社会
  - ・貧困家庭の増加（特に母子家庭の貧困率の高さ）
  - ・忙しさ、ゆとりのなさは、子どもと関わる余裕を持ってない、子どもの心身の変化に気づけない
  - ・社会の不安定さから、子育ての不安や焦り、悩みは尽きず、追い詰められた苛立ちを抱える
- \* 子ども時代を夢中に生きるどころ、子どもたちの安心・安全そのものが脅かされている時代背景
- \* 親も我が子に向き合う余裕がなく、子どもを取り巻く状況や変化、抱えている思いが見えにくい
- 子どもや家庭の困難さにどう寄り添うか？子どもたちに多くの大人が関わる社会にしていく必要

### 1・学童保育をめぐる国の動き

#### ●今や、働きながら子育てする家庭に無くてはならない施設となった学童保育

- ・全国学童保育数・・・2万5541ヶ所（前年比 3445ヶ所増）
- ・学童保育を利用する入所児童数・・・101万7429ヶ所（前年比 8万3894人増）
- ・まだ山積する課題・・・潜在的待機児童、大規模化、支援員の体制の整備と待遇改善

#### ●学童保育の量的・質的な拡充を図るための「子ども・子育て支援新制度」のスタート

- ・指導員として求められる仕事の専門性・・・指導員の仕事に対する国の認識が大きく変わった
- ・省令に定められた支援員の資格制度、認定資格研修（研修の義務化）処遇改善のための財政措置

→専門性のある社会的な役割を担う責任と自覚が問われる（求められる指導員の意識改革は課題）

#### ●「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」「放課後児童クラブ運営指針」の策定

- ・学童保育の役割が明確にし、その役割を果たすために必要な内容が明記されている

- ① 「最低基準」としてではなく「全国的な標準仕様」として
- ② 放課後児童クラブが果たすべき役割及び機能を適切に発揮できるよう内容を規定した
- ③ 放課後児童支援員等が、子どもと関わる際の共通認識を得るために必要なこと

→運営指針を支柱に育成支援の内容を充実させていく

## 2・学童保育の役割

○放課後児童健全育成事業（学童保育）の役割 運営指針第1章「総則」－2より

- (1) 小学校に就学している子どもであって、その保護者が労働などにより昼間家庭にいないものに、放課後に適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る事業である。
- (2) 子どもの最善の利益を考慮して育成支援を推進することに努める。
- (3) 学校や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、保護者と連携して育成支援を行うとともに、その家庭の子育てを支援する役割を担う。

### ●学童保育に託す親の願い

- ・制度も何もない中で、働く親たちの願いから生まれた児童クラブ・・・我が子への愛情と責任
- ・親と指導員が互いに手を取り合いながら、知恵と力を合わせながら、子どもにとってよりよい環境づくりのためのたゆまぬ運動と共に子どもを育てる保育実践の積み重ねが、学童保育の必要を社会的な合意に広げ、国の基準と運営指針をつくることにつながってきた。

・学童保育は、保護者の子育てのより所として発展し、広がってきた「子育てを支える施設」

→学童保育の役割は

「子どもの健全な育成支援（子どもとの関わり）」と「保護者との連携」の2本柱

## 3. まずは、子どもたちが安全で安心して心地よく過ごせること

(1) 放課後児童クラブにおける育成支援運営指針 第1章「総則」－3(1)より

放課後児童クラブにおける育成支援は、子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立などにより、子どもの健全な育成を図ることを目的

●子どもたち（どの子ども）にとっても、学童保育を嫌がらずに負担なく帰ってこれ、児童クラブが安全で安心できる毎日の生活の場としてよりどころとなれるような生活をつくりだすこと

\*事例 ここはどこ？

- ・一人ひとり違いをもつ子どもたちは、思いの表わし方も様々。子どもを理解することの困難さはあるけれど、背景にある子どもの願いを理解する。

\*事例 つながりを確かめあい

- ・子どもたちの置かれている状況や背景、暮らしを把握しつつ、思いや感情を受け止める

\*事例 なんでの思いがうずまいて

- ・自由世界が広がる生活（自分のやりたいことを自ら選択し、自由な時間を伸びやかに過ごす）

\*事例 師匠と弟子

- ・どの子ども輝き（持ち味）を発揮できる生活を（日々、子どもとの出会い直しを重ねる）

- ・一人ひとりの違いを大事にしなが、互いに支え合える子ども集団をゆっくり育む

●「居場所」というのは、身を置く「場所」ではなく、心を預けられる「心の置き場所」が必要  
学童に帰ってくるどの子どもにとっても、心の安定を回復する「より所」となる生活を保障する。

●子どもたちは、何か特別な取り組みがあったりドラマがあって変わるのではなく、生活の何気なく、くりかえされる一コマ一コマの中で生きる喜びと豊かな心を育てている。何気ない一コマ一コマを丁寧にすくい取れる支援員でありたい。

#### 4・保護者との連携～子どもの生活の様子を伝えることは指導員としての仕事の根幹～

##### (2) 保護者及び関係機関との連携

第1章「総則」-3(2)より

放課後児童クラブは、常に保護者と密接な連携をとり、放課後児童クラブにおける子どもの様子を日常的に保護者に伝え、子どもに関する情報を家庭と放課後児童クラブで共有することにより、保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事などを両立できるように支援することが必要である。また、子ども自身への支援と同時に、学校などの関係機関と連携することにより、子どもの生活の基盤である家庭での養育を支援することも必要である。

- 保護者にとっては、我が子がいろいろありつつも指導員に受け止められていること、仲間との関係を築きながら過ごしている事実を知ることこそ、子育てに支えと励ましを受ける。
- 働きながらの子育て事情の厳しさを理解する・・・家族のあり方、子育てのあり方の多様化
  - ・単身家庭が増え、困難さや貧困を抱える問題の深刻化・・・関係性の貧困は孤立化を生む
  - ・子どもの背景にある暮らしぶりを分かりつつ、保護者の思いに寄り添い、援助の手立てを探る

\*事例 **困難な家庭を支える**
- 子どもたちの姿への共感が、指導員と親との確かな絆をつくっていく
  - ・子どもの変化や成長の姿（育ちのプロセス）を 伝えあい、共に考えあい、子育てを共有しあう
  - ・親として「できなさ」への悩み、将来への不安や焦り（子どもの要求と親の願いの大きなズレ）

\*事例 **しょうがないよ**

  - ・受け手であるはずの親だって揺れる存在。愚痴をこぼしたり、弱さも投げ出しながらつながる
  - ・親の子育ての間違いを正すということというよりも、保護者の不安や悩みを和らげることの支援
  - ・困った時に寄り添ってもらえる存在があるからこそ、親としての自信を回復していく親たち
  - ・子どもも保護者も否定されないことの安心、受け止めてもらえる実感があってこそ信頼

#### 5・指導員同士の連携・・・豊かな保育実践は、指導員相互のあり方

##### 運営指針第3章5(1)

放課後児童クラブにおける育成支援に係る職務内容には、次の事項が含まれる。

- ・子どもが放課後児童クラブでの生活に見通しを持てるように、育成支援の目標や計画を作成し保護者と共通の理解を得られるようにする。
- ・日々の子どもの状況や育成支援の内容を記録する。
- ・職場内での情報を共有し事例検討を行って、育成支援の内容の充実、改善に努める。
- ・通信や保護者会等を通して、放課後児童クラブでの子どもの様子や育成支援に当たって必要な事項を、定期的かつ同時にすべての家庭に伝える。

- 保育実践の記録（言語化）・・・保育実践を客観的に振り返り、次の実践につなげるための記録地道な作業ではあるけれど、毎日の記録が仕事の意識化・仕事の追及になる。書き続ける。
- 次の実践の見通しにつながる記録を書く ・事例より （業務日誌、保育日誌）

##### 運営指針第7章3(1)

- ・放課後児童支援員等は、会議の開催や記録の作成等を通じた情報交換や情報共有を図り、事例検討を行うなど、相互に協力して自己研鑽に励み、事業内容の向上を目指す職員集団を形成する
- ・放課後児童支援員等は、子どもや保護者を取り巻くさまざまな状況に関心を持ち、育成支援に当たっての課題等について建設的な意見交換を行うことにより、事業内容を向上させるように努める。

●指導員の連携と実務で、子ども理解を深めあい、児童クラブ実践を高めよう

- ・子どもの安全を守り、安定的な生活を保障するために、保育に必要な情報を指導員同士で共有しあうことは不可欠
- ・毎日の打ち合わせや職員会議で、子どもの姿の共有、保護者との伝え合い、学校との連携など、事実を共有することで、子ども理解、保護者理解を深め合い、互いの実践を高め合う。

6・人との新たな出会いと豊かな関わりを育む、よりよい学童保育を

運営指針第1章の3(3)

放課後児童支援員は、豊かな人間性と倫理観を備え、常に自己研鑽に励みながら必要な知識及び技能をもって育成支援に当たる役割を担うとともに、関係機関と連携して子どもにとって適切な養育環境が得られるよう支援する役割を担う必要がある。また、放課後児童支援員が行う育成支援について補助する補助員も、放課後児童支援員と共に同様の役割を担うよう努める

- ・指導員として、子どもたちの心の動きや変化に気づき、保護者の痛みや喜びに心を寄せられる感性を磨き続けること
- ・子どもと共に生きることを職業として選んだ私たち指導員の基本姿勢は、学び続けること
- ・子どもが群れて遊んだり、ぶつかったり、ケンカもするけれど「子ども時代」を仲間とつながりながら心豊かに過ごせる生活を保障することと働きながら子育てする保護者を支えることが保障される学童保育の役割を果たすための実践をていねいに積み重ねていきましょう。

# かたくり

原市場かたくりクラブ通信

たんぽぽ号 2016・4



## ここは、どこ？



こうの

入所式が終わった後に、1年ハルちゃんがコーノの前に立ち、話しかけてきました。

「あのね、レイ君とはじめて会った時にびっくりすると思うよ」と言ってきたので

「レイ君のどんなことにびっくりすると思うの？」と私がたずねると

「レイ君は、独り言を言ってウロウロするけどね、でもね、だいじょうぶだからね」

とハルちゃんは、ゆっくり丁寧に、同じ保育園出身のレイ君のことを伝えてくれました。

レイ君が、はじめて学童にやってきた日も、同じ保育園出身のミウちゃんが待ち構えていて

「レイ君、あのね、レイ君の靴箱の場所はここだよ。ロッカーはね、こっちにおいで」

レイ君の手をつないで、ミウちゃんは丁寧に案内をしていました。

そのうち、レイ君は、同じ1年リョウイチ君と一緒にドミノを並べて盛り上がっていました。

「ここは、どこ？」レイ君が側にいたコーノに話しかけてきました。

「レイ君、ここはね、学童（がくどう）だよ」とコーノが答えると

「こんな学童って楽しいなあ〜」と上を見渡し、しみじみ噛みしめるようにつぶやきました。

「レイ君が、楽しくって良かったよ。これからは、学校が終わったら、毎日学童に帰って

くるんだよ。ママがお迎えに来るまで、学童でみんなと過ごすんだよ。だいじょうぶ？」

コーノが、レイ君に話しかけると、レイ君は大きくうなづきました。

それから、レイ君は、リョウイチ君と「ピタゴラススイッチ！」と繰り返し言いながら、

ドミノを並べては倒し、倒しては並べるの繰り返しを楽しんで過ごしました。

お弁当の時間になって、レイ君が突っ立っていると、ミウちゃんとハルちゃんがすかさず

「レイ君、サスケ君のテーブルに行く？それとも、そのテーブルで食べる？」と自ら

声をかけました。レイ君が「ここ」と言うと「分かった、じゃあ、一緒に食べよう！」と

ミウちゃんとハルちゃんは、レイ君のテーブルと一緒にいてお弁当を食べました。

「レイ君は私が面倒を見るから」と言う二人は、「こうなさい」とかの指示ではなく、

レイ君が「どうしたいか？」の考えを聞き、レイ君の判断を尊重したうえでのサポートをし

ています。これまでの保育園の生活で、温かなつながりが築かれてきたことも垣間見えます。

レイ君がつぶやいたように「こんな学童って楽しいなあ〜」とみんなが思えるような学童の

生活でありたいと思えました。



1年生～6年生まで46名の仲間としてのつながりがスタートしたばかりです。さまざまに

違いを持つ子どもたちが、大勢で過ごす生活の中には、ぶつかりやトラブルも当然あります。

ぶつかりやトラブルの経験もくぐりながら、それぞれ持つ違いを大切にしながら、互いに育

ちあう関係もゆっくり時間をかけて育んでいきたいです。

私たち大人もつながりながら、子どもたちの育ちをゆったりと見守っていきましょう。

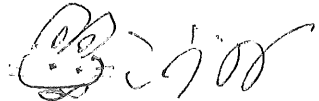


# かたごけ

原市場かたくりクラブ通信

雨だれ号 2015・6

## つながりを確かめ合い



雨の日が続き、「外に出ちゃいけないの〜？」室内でエネルギーを持って余す子どもたちです。室内から、靴箱前のデッキの方をのぞくと、3年ユウマが、1年アッ君を突き飛ばし、アッ君もユウマに飛び掛る寸前でした。慌てて、興奮するアッ君を抱きとめて3人に経過を聞くと最初、デッキでプラ容器を蹴飛ばして遊んでいた3年エイシンの所に、アッ君が入ってきて、「それは、ボールじゃないから蹴っちゃいけないだよ！」と声をかけてきたので「うるせえー」と言ったら、エイシンの腕をアッ君が引っ掻いてきたので、ユウマがアッ君を蹴飛ばしたとのことでした。エイシンは、ただ、事の成り行きをみていたとのことでした。この所、ユウマが年下の子どもにからかいや嫌がらせをして楽しんでいることが気になっていたもので、わざわざ二人の間に分け入ってアッ君を蹴飛ばしたユウマに向き合いました。

「アッ君の言葉を不愉快に思ったのかもしれないけれど、暴力じゃなくて、言葉で伝えれば良かったんじゃないの？人へのからかいや嫌がらせや暴力は、誰であってもやっちゃいけないことだってことを、いつもコーノは、話しているよね」

ユウマの（またか？）の行動に私は、怒り心頭でした。ユウマは見下すかのように

「はあ？いつも・・・じゃありませ〜ん。土曜とか日曜とか（休み）言ってませ〜ん」



ユウマは、相手が怒ると、余計に気持ちを逆撫でするような、こんな返し方をします。私は、ワナワナしながらも話し合いを重ねました。アッ君も、なんとか落ち着きを取り戻しました。夕方、またユウマとエイシンが、1年生がせっかく並べたドミノを、わざと倒すマネをして困っている1年生に執拗に嫌がらせを続けていたらしく、他の指導員に注意を受けていました。二人が、また年下へ嫌がらせの行為をくり返したので、私は再度、エイシンと向き合いました。

「オレは、そばで見ただけ」と言うエイシンにも「人が困っていることに気づきながらも、何も言わずに近くで見逃していたら『オレは、関係ない』とはならない」と伝えました。

傍らでユウマは、待ち構えていたのですが、私は、怒りというより、むしろ冷静な口調で「ユウマは、人に言われるというより自分がやったことを自分自身で、考える必要があるよ」一言だけを伝えて、ユウマの元から離れました。突き放されたように感じたかもしれません。その夜は、私は眠れないままに（私の対応は、ユウマに怒りしか伝えられなかったのかもしれない。明日、もう一度ユウマと、向き合ってみよう・・・）悶々と考え続けていました。

次の日、ユウマのお迎えに来たママが「昨日、ユウマはやらかしたみたいね」と笑い出しました。

「えええ〜、私は、ママに伝えてなかったけど、もしかしたらユウマが自分で伝えたの？」

「そう、ユウマがお風呂で泣きながら『オレは、1年に嫌がらせをしてコーノに怒られたのにまた同じことをやったから〜（泣）』と言ったから『明日は学童に行くの？』とたずねたら『学童は、オレには家と同じだから行く〜』と言ってました。全くね〜、お世話をかけます」

ユウマが自分の行動を見つめなおしていたことに気づいて、胸がいっぱいになり泣けました。

「ユウマには、コーノの思いは届いていたんだね。ちゃんと考えてくれていたんだね。」

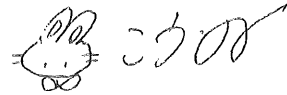
ありがとね。学童から帰ってから、夜もコーノも怒りすぎたな〜とずっと考えていたんだよ」ギューっとしながら伝えると、ユウマは「それが？それが？」と言い、目には涙が溢れました。ユウマは、何度も確かめようと試みた心のつながりを、やっと実感できたのだらうと思います。

# かたくり

原市場かたくりクラブ通信

ゆきんこ号 2015・1

## なんで?の思いが渦巻いて



「リオ、おかえり！今日も寒かったね～」と学校から帰ってきた2年リオに声をかけると「ねえ、ちょっと、コーノ・・・ママのことなんだけどね」

リオが、こわばった顔で、私の前に来て、そっと小さな声で私にママのことを話してきました。今は一緒に住んでいないママのことが、このところのリオの気がかりなのです。しばらく私がリオの話しを聞くと、落ち着いたリオはエアホッケーの遊びに誘われるままに入っていました。すぐその後に、リオが学童中に響き渡る声で泣きじゃくりながら歩いてきました。私は、キラリとオセロをやっている途中だったので、リオに声をかけて呼びかけました。

「リオ、こっちに来てごらん。何があったかを自分でお話できる？」

「だって、遊びを男子にじゃまをされたから『やめて！』って泣いたら『気持ち悪い！』って言われて、なんで、泣いたのを気持ち悪いって言うんだよ～！！」大声で泣きました。

「ジャマされた上に、その言葉は、イヤだったね。相手は、ふざけただけなのに、リオの思いもよらない反応にビックリしたんだと思う。コーノからもリオの気持ちを伝えるね」

リオは、一旦落ち着きを取り戻し、輪ゴムのレインボールーム作りに取り掛かると、また

「輪ゴムが、こんな気持ち悪い色ばかりで、こんなじゃ作りたくないよ～！」

大声で泣きじゃくりはじめました。「なんでだよ～」をくりかえし言いながら泣いていました。

「リオ、今朝リオの好きな薄紫色の輪ゴムを買っておいたから、この薄紫色を使う？」

私が、午前中の研修の帰りにレインボールームの買い足しておいた輪ゴムを差し出すと

「もー、どーでもいいよー！その輪ゴムをそこに置けばいいじゃん！」と言い放ち、テーブルに置かれた薄紫色の輪ゴムで編みはじめました。すると、また泣き出し

「イトのせいで、間違えたじゃん！イトのせいなんだからねー！」と大声で泣き出し。

「ええー、わたし??せっかく教えていたのに私のせい？」伊藤ちゃんもビックリ。

その合間に、泣き止んだかと思うと、目の前をユウコさんが通っただけ

「なんで、笑うんだよー？」と大声で泣き出し「ええー?笑ってないよ？」

リオは、指導員にさんざん自分の苛立ちをぶつけまくりましたが、伊藤ちゃんが根気強くリオのゴム編みに付き合ったので完成しました。すると、リオは落ちついてきて、今度は、キラリと工作のために一緒に空き箱を探している時に、小さな空き箱を見つけたキラリが

「指導員たちは、こんな美味しそうなのを食べているなんてズルイよ！こんなモン食べているから、指導員は、あんなに太るんだよ！」と言うと、リオがすかさず

「いいんだよ、キラリちゃん、こんな小さな箱なんだから、指導員が食べたっていいんだよ、指導員たちもがんばっているんだからね」とリオがキラリに言い諭しました。

心の中の「なんでだよ～」の思いを散々ぶちまけたリオでしたが、その後は、人のことを思いやれるくらいに心の落ち着きを取り戻したのです。そして、次の日に私の方から

「リオ、また、心の中の寂しさやいら立ちをがまんできなくなったら、お話においでね」と声をかけると、リオは大きくなづいてにこやかな表情になりました。

子どもたちは、自分の納得いかないことや消化しきれない思いを、周りの大人に受け止めてもらうことで、内面の「なんでだよ～」に折り合いをつけて前に進むのだらうと思いました。



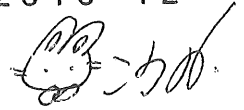


# かたけ

原市場かたくりクラブ通信  
オラフ号 2015・12



## あの怒りは、どこへやら・・・



ロッカーの部屋から1年アオ君の泣く声がしました。気まずそうに向こうの部屋に向かう1年ショウタに「何かあったの？」と尋ねると、ショウタは不機嫌そうに

「そっち（アオ君）がオレに靴下を投げて来たんだ！そっちが悪いんだ！」と言い捨てて去ると、アオ君はますます泣きながら椅子をひっくり返したり、机を倒すほどの勢いで泣いて怒りました。アオ君のそばで、ゆっくりと私の方から

「アオ君がこんなに怒っているのには、納得できない理由があるんだよね？何があって、どうして怒っているのかを、アオ君の言葉でコーノにお話しできる？」とゆっくり語りかけると、アオ君は泣きながらも自ら話しはじめました。

「あのね、あのね・・・ショウタ君がね、僕の鼻の前で靴下をブラブラしたから『やめて』って言ったのにね、ショウタ君がやめなかったから僕は靴下を投げたの・・・」  
「アオ君がお話してくれたから、アオ君が怒っていることがよくわかったよ。

ショウタともう一回話し合ってみようね」とショウタの所と一緒に向かいました。学童に入所したばかりの4月の頃、アオ君は嫌なことがあったり、思い通りにならないとひたすら泣き続けていましたが、今は、泣きながらも自分の思いを言葉で伝えられるようになりました。これまでの人との関わりを重ねる中で「思いを受け止めてもらえる」ことの安心感が、アオ君の感情をぶつけるだけでなく「言葉で思いを伝える」ことにつながってきたのだろうと思うのです。

アオ君と一緒にショウタに向き合い、私の方から、ショウタに切り出しました。

「アオ君がショウタに靴下を投げたのは、ショウタがアオ君の鼻に靴下をブラブラしたからなの？」と尋ねるとショウタは不機嫌そうに

「オレは、そんなことはやってない！アオイが嘘をついてるんだ！」と言いました。アオ君は、ショウタとの気持ちのすれ違いや分かり合えないことにガッカリしながら「あ～あ、ショウタ君と同じせせらぎなんかに入るんじゃないかな」とつぶやくと、アオ君の意外な言葉にショウタは「えっ？」驚きと失望の表情になり

「ねえ、アオイ君、せせらぎじゃなかったら楽しくないよ。オレは、せせらぎで楽しいよ」と説得しはじめました。ショウタの言葉にアオ君は、視線を落とし、二人の間に一瞬沈黙が流れました。私の方から

「そうだね、二人とも同じせせらぎだから仲良くできればもっと楽しくなれるね」と声をかけると、もはや喧嘩の原因も忘れてしまっていた二人は明るい表情で

「うん、ねえ、一緒にあそぼう！さっきはごめんね」と外へ駆け出していきました。靴下も怒りもどこへやらの二人でしたが、二人の心の根っこで「仲間としてつながってほしい」思いは互いの共通にあることを確かめ合えたことが満足だったようです。

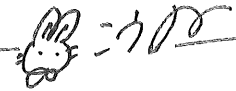




原市場かたくしクラブ通信

春色号 2016・4

## 師匠に弟子入り



2年エイちゃんは、毎日のように学童で、ハサミとセロテープ、ガムテープを横に置いて紙や段ボールを切り刻んで、何やら工作をしています。時に、紙箱の自動販売機もあります。おはじきのお金を入れて、取っ手をひねるとおつりも出てきたり、ジュース缶が出てくるので、エイちゃんの発想と物を作り出す力には、私たち大人も毎回驚かされます。

そんなエイちゃんが、車づくりを始めたのは1年の終わりの頃でした。大きな段ボール箱を切ったり、貼ったり、つなげながら、運転席と助手席を作ったものの、乗りたい人が続出したため、後部座席まで作って大きな作品になりました。

入所式の「新しく入って来る1年生への遊び紹介」で、エイちゃんは、この大きな車を紹介しました。「1年生が入ってきたら、1年生をこの車に乗せてあげたい」と新しい仲間との出会いを心待ちしていたエイちゃんです。

春休みに入って、のんびりゆったり時間のなかで、エイちゃんは手で転がすほどの大きさの車を十数台も作りました。材料は、段ボールとセロテープとペットボトルの蓋を4個（タイヤ用）と竹ひご、ストローのみです。迎えに来る保護者の車を眺めては

「あの車、タイヤが大きい！」目に入る刺激は、またエイちゃんの創作意欲を掻き立てます。

「ドアをスライドドアにするには、どうすればいいんだろう？」

「ハンドルとタイヤが連動するためには、どこをつなげたらいいんだろう？」

「こんどは、トラックをつくろう！」車の辞典を広げたり、ママのスマホで調べたりしながらエイちゃんは、意欲的に次々と色々な形の、色々な大きさの車を作り続けました。

そんなエイちゃんの横でじーっとエイちゃんの手先を眺めていた1年ユイト君がポツンと

「ほくも、そんな車を作りたい・・・」とつぶやきました。

「エイちゃん師匠、ユイト君が車づくりを教えてもらいたいらしいよ」とコーノが伝えると

「いいよ」エイちゃんは、ユイト君のために快く段ボールに車の設計図を書いてくれました。

エイちゃんの弟子入りをした1年ユイト君は、段ボールを切って組み立てます。

タイヤのペットボトルの蓋に穴をあけるのは、コーノが手伝ってあげながらも、完成した段ボールの車を満足そうに持ち帰ったユイト君です。

次の日も、ユイト君は、師匠の作る自動販売機を眺めては「スゴイ！」と感動の連呼です。

自らも、チャレンジしながら「あっ、穴をあけるのは、ここじゃなかった・・・」と失敗もあつつつ、気持ちを切り替えて、ストローをつないでの大好きな恐竜を作りました。

師匠エイちゃんを見習いながら、創作活動を続ける1年ユイト君です。

学童には、「あんなになりたい」と憧れ、目標となる「年上の仲間」がいます。一緒に競い合える「同学年の仲間」もいます。自分を慕ってくれる「年下の仲間」もいます。

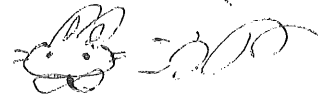
遊びや生活を通して、仲間との豊かなつながりが育まれる良さも学童ならではの・です。

# かたくり

原市場かたくりクラブ通信

桜吹雪号 2015・4

## しょうがないよ



校庭で高学年の男子女子たちが混ざってバスケットのゲームを楽しんでいるところに、好奇心旺盛の1年アツ君が、いきなり飛び込んでいきました。アツ君は、バスケットのルールなどそっちのけで、ボールを持っている人をめがけて体当たりしたり、途中でラグビーさながら、ボールをだき抱えたまま、どっかに走り去ってしまうので、ゲームは度々中断することになります。みんなが「ええ～？また～？」と困ると、6年ユウゲツが大きな声で「しょうがないよ！1年なんだから・・・」とみんなをなだめます。しばらくボールが戻ってくるまでみんなで待って、ボールが戻るとゲームは再開されていました。一箇所にジッとしていられないアツ君の好奇心は、3年リオ、キラリ、ミミ、2年ユウスケたちがやっているサッカーの遊びに向かいます。

いきなりゲームに入ってきて、みんなとがめることもなく受け入れます。ここでもアツ君が、ボールをだき抱えて立ち去っていくと、3年リオが

「しょうがないよね、1年なんだから！」とみんなに声をかけて、アツ君がボールを持って走り回ってからゲームに戻ってくるまで、みんなで待っていました。

室内でブロックで遊んでいたメンバーも、「1年がおれのブロックを触っていた・・・」の不満が話された時も、5年クボちゃんが「しょうがないよ、1年なんだから・・・」の一言に、みんなが納得したように遊んでいました。



それでも我慢にも限界があります。4月1日1年生を受け入れてから、心を決めたように自分のやりたいことをさせて置き、1年生たちの遊びに付き合い、よく面倒を見てくれる6年ユウゲツに、1年アツ君が「おまえ、6年生だろ？」の言葉にとうとう我慢ならず、ポカリ！「あっ！」小さく悲鳴を上げたユウゲツは、顔をひきつらせて固まりました。6年ユウダイは、工作の途中の作品をいじられても我慢していたのに、やっと苦勞の末に完成したレゴブロックをアツ君が通りざまに壊していくと、我慢ならずポカリ！

「オレは、精いっぱい我慢したんだけどね、アイツがオレを挑発してきたね、どうしても我慢できなかったんだ・・・ごめんなさい」

ポカリとやられたアツ君の方は、全く気にならない様子でまた他の場所に走り去ったのですが、感情を抑え切れずに「やっちまった～」の後悔と罪悪感でうつむいていたユウゲツとユウダイでした。時には、我慢の限界も超えて、そんなトラブルになることもあります。

お兄さん、お姉さんたちは、ヤンチャな新しい仲間たちに振り回されながらも、誰からともなく、あちこちで「しょうがないよ、1年なんだから～」の言葉が飛び交います。

だらかに緩やかに受け入れようとしています。年上の自覚を持ち、小さな幼い妹、弟を仲間として寛容に受け入れようとしているお兄さんやお姉さんたちの優しさが学童の生活の中に溢れていて微笑ましいです。出会ったばかりの仲間たち・・・仲間として太く強い関係を作っていけるよう、大人たちもつながりながら温かく見守っていきたいものです。

# 学童保育におかえり

① 埼玉・原市場かた  
くりクラブ指導員

河野 伸枝

放課後、学童保育に帰ってくる小学2年生タスクの表情が沈みがちになった。母親が家を出て、タスクと4年生のマナがお父さんと3人で暮らすようになったからだ。

そのころ、タスクは子どもたちの遊びの輪からそっと抜けだしては、一人でデッキの隅っこにうずくまり泣いていることがたびたびあった。「何かあったの？」と指導員が声をかけると「お母さんに会いたい…さびしい…」。声を殺してしばらく泣き続けた。

「タスク、つらいね」。かける言葉が見つからないまま、傍らで寂しさと悲しみにくれるタスクの心と体を抱きしめて時を過ごすしかすべがなかった。迎えに

来る父ちゃんの表情も険しかった。「さっさとしろ！置いて帰るぞ!!」。2人は表情を硬くしたまま、仕

は部屋中に異臭が立ちこめた。マナに、「私から父親と話そうか？」と尋ねると、「私たちが大変な目に

## 困難な家庭を支える



マットの上でじゃれあって…

度もそこそこに慌てふためいて帰っていくのだった。そのうち、汚れたままの服を着たきりで、入室時間

められていた。迎えに来た時思い切って踏み込んだ。「父ちゃんも大変だったね。家事や子育ても一気に

抱え込むことになって、大丈夫？」。父親は肩を落とす。「子どもが言うこと聞かないし…」とこぼした。「そうだね、子育てって思うようにいかないことが多いね。子どもたちもがんばっているし私たちも力になるから、大変なときは遠慮しないで何でも話してね」

表情がやっと緩んだ。迎える時に指導員と冗談も交わすようになった父親の変化とともに、家庭生活も改善され、子どもたちの表情も明るくなってきた。目の前の困難な状況にある子どもを守るため、家庭の状況を探りよせながら援助する手立てを考え、時に周りと連携する必要に迫られることもある。

(火曜掲載)

●問い合わせ：FAX送信先

鹿児島県児童クラブ連絡協議会事務局（青葉児童クラブ内）

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久 2105-1

TEL/FAX 0995-45-7800

ホームページ：<http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm>



携帯サイトです。  
ブックマークに登録を！